

都市計画道路 八尾富田林線
街路事業
[羽曳野市・堺市]

【再々評価】

（前回評価から5年を経過した時点で継続中）

1. 事業概要

■事業目的

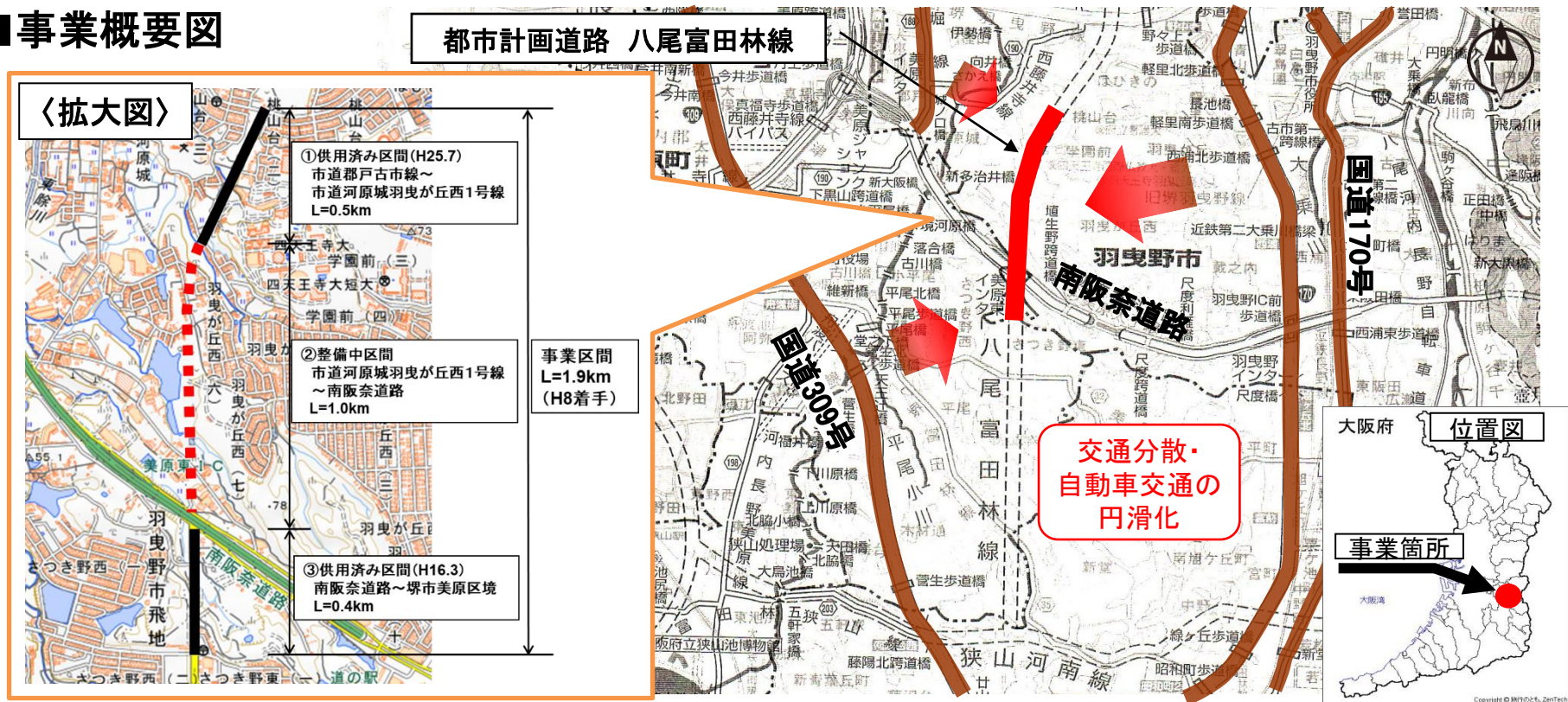
本路線は、中部広域防災拠点(八尾空港隣接地)にもアクセスする、南河内地域における南北方向の主要幹線道路である。

本事業は以下を目的に整備するものである。

○南阪奈道路美原東ICへのアクセス道路として、**広域的な幹線道路ネットワークを強化**

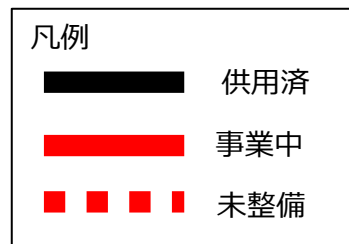
○国道170号や国道309号等、周辺道路の**交通混雑の緩和、安全性や防災機能の向上、地域の活性化**に寄与

■事業概要図



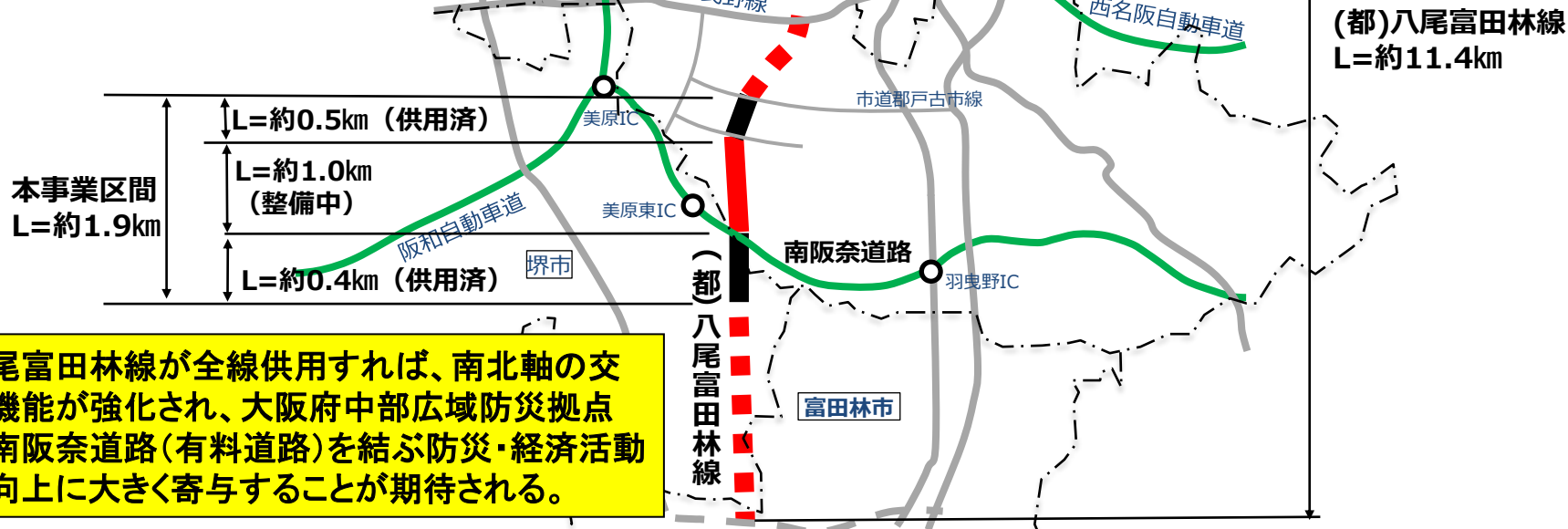
1. 事業概要

■都市計画道路八尾富田林線について



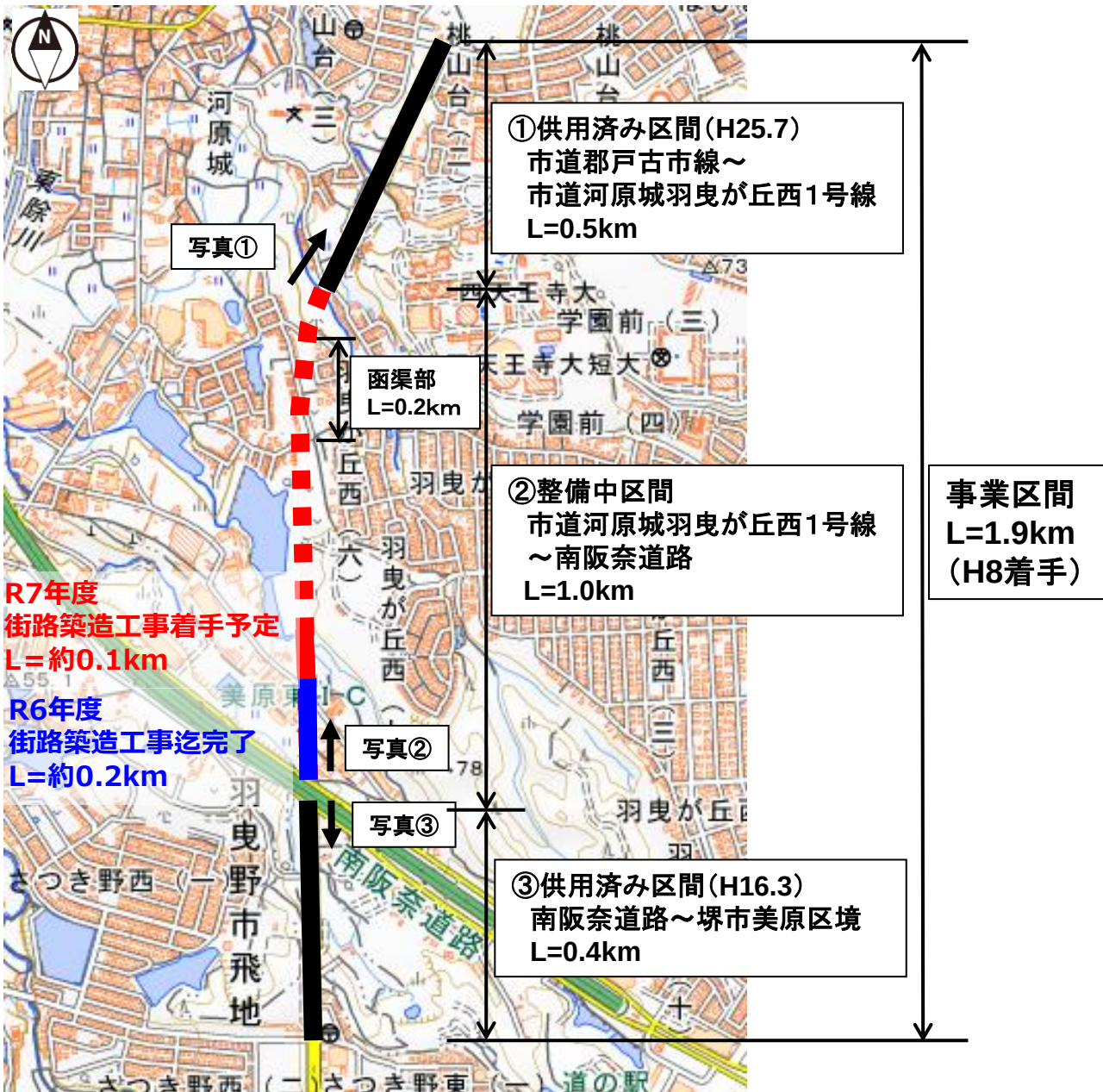
【大阪府中部広域防災拠点】

災害発生時に備えた非常用食糧や毛布等を保管し集配機能を要する備蓄拠点、応援ヘリコプターの受け入れを行うヘリ駐機場や応援部隊の駐屯・活動拠点。



八尾富田林線が全線供用すれば、南北軸の交通機能が強化され、大阪府中部広域防災拠点や南阪奈道路(有料道路)を結ぶ防災・経済活動の向上に大きく寄与することが期待される。

1. 事業概要



写真① 供用済み区間



写真② 整備中区間



写真③ 供用済み区間



1. 事業概要

■道路築造

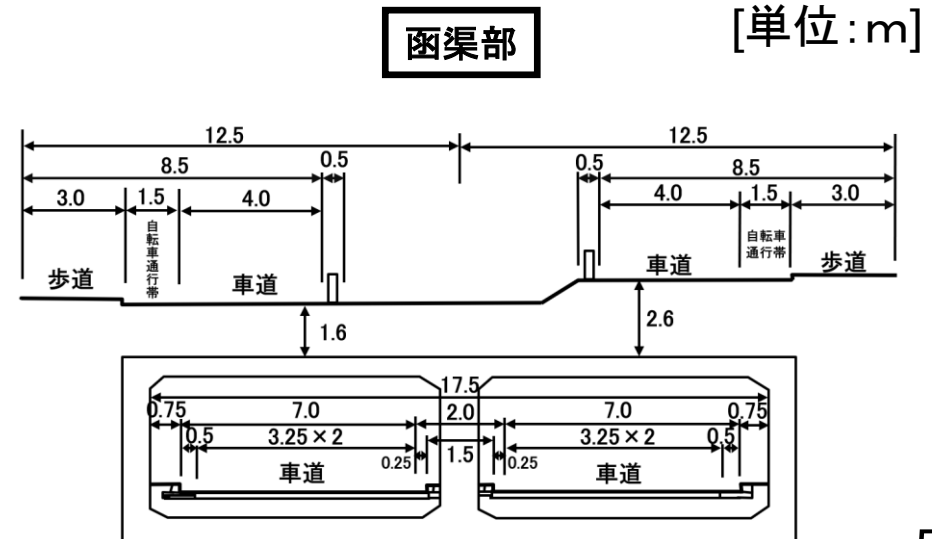
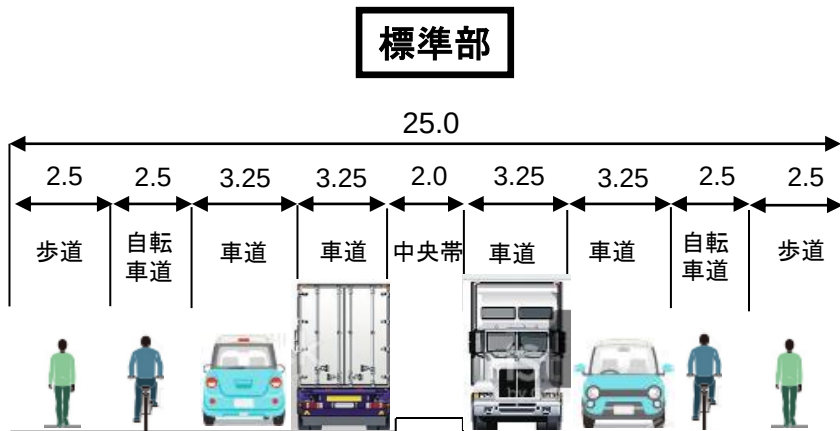
○事業延長 : 約1.9km(うち供用済みL=0.9km)

○道路幅員 : 25.0m

車道 4車線(3.25m × 4)

自転車道 両側(2.5m × 2)

歩道 両側 (2.5m × 2)



1. 事業概要

■事業費の内訳

○全体事業費： 約101.5億円（約95.2億円）[国：55.8億円、府：45.7億円]

【内訳】調査費等 約8.6億円（約7.0億円）

用地費 約50.8億円（約50.8億円）

工事費 約42.1億円（約37.4億円）

※（ ）内は、令和2年度再々評価時点

【増額理由】物価高騰による労務費、材料費の見直しによる工事費の増額

【事業費の積算根拠】

- ・予備設計成果
- ・用地費単価 ⇒ 本事業の実績より
- ・補償費単価 ⇒ 本事業の実績より

2. 事業の必要性等に関する視点

■上位計画における位置づけ

〈大阪府交通道路マスタープラン(H16.3)〉(長期的な道路整備など総合的な交通政策の基本計画)
基本方針の中で、「**環状交通機能の強化**」に位置付け

〈大阪府都市整備中期計画(R3.3)〉
(大阪府交通道路マスタープランに基づき、令和3年からの10年間におけるインフラ整備のアクションプラン)

南阪奈道路美原東ICへのアクセス強化を担っており、大阪・関西の成長に必要な都市の骨格となる
7放射軸・3環状線のうち「**概成**」と位置付け

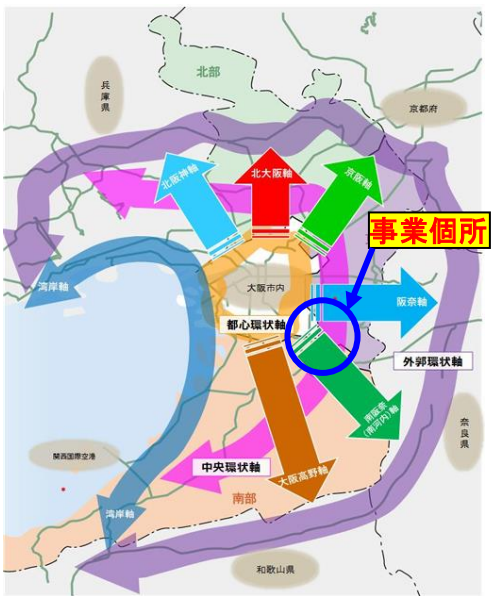
〈羽曳野市都市計画マスタープラン(R3.12改訂)〉
将来都市構造のうち、「**広域交通流軸**」と位置付け

大阪府交通道路マスタープラン

〔整備の基本方針〕	
① 関西圏の連携強化	・大阪と神戸、京都、奈良、和歌山など主要都市間の連絡強化 (第二京阪道路、第二京奈道路、南阪奈道路、第二阪和道路、国道317号バイパス、阪神高速延伸線 など)
② 広域交流拠点(空港、港湾)や国土軸への連絡強化	・関西国際空港、大阪国際空港、大阪港、堺泉北港などへの連絡強化 ・新大阪駅、第二京神高速道路などへの連絡強化 (新大阪駅の機能強化(公共交通の活用、改築など)、大阪湾環状線 など)
③ 環状交通機能の強化	・関西圏の環状交通機能の強化 (大阪都市再生環状道路、府道大阪中央環状線の機能強化(公共交通の活用、改築など)、京奈和自動車道 など)
④ 都市部の交通機能強化	・都市部での公共交通ネットワークの充実 (京阪中之島線など)



大阪府都市整備中期計画



羽曳野市都市計画マスタープラン



2. 事業の必要性等に関する視点

■事業の優先度

●交通機能の強化

- ・南阪奈道路への**アクセス性の向上**や**物流の効率化**
- ・国道170号や国道309号等、
周辺道路の**交通混雑の緩和**

●防災機能の強化

- ・**広域緊急交通路**としての整備
- ・国道170号等幹線道路の**リダンダンシーの確保**
- ・大阪府中部広域防災拠点や南阪奈道路を結ぶ
防災活動の向上

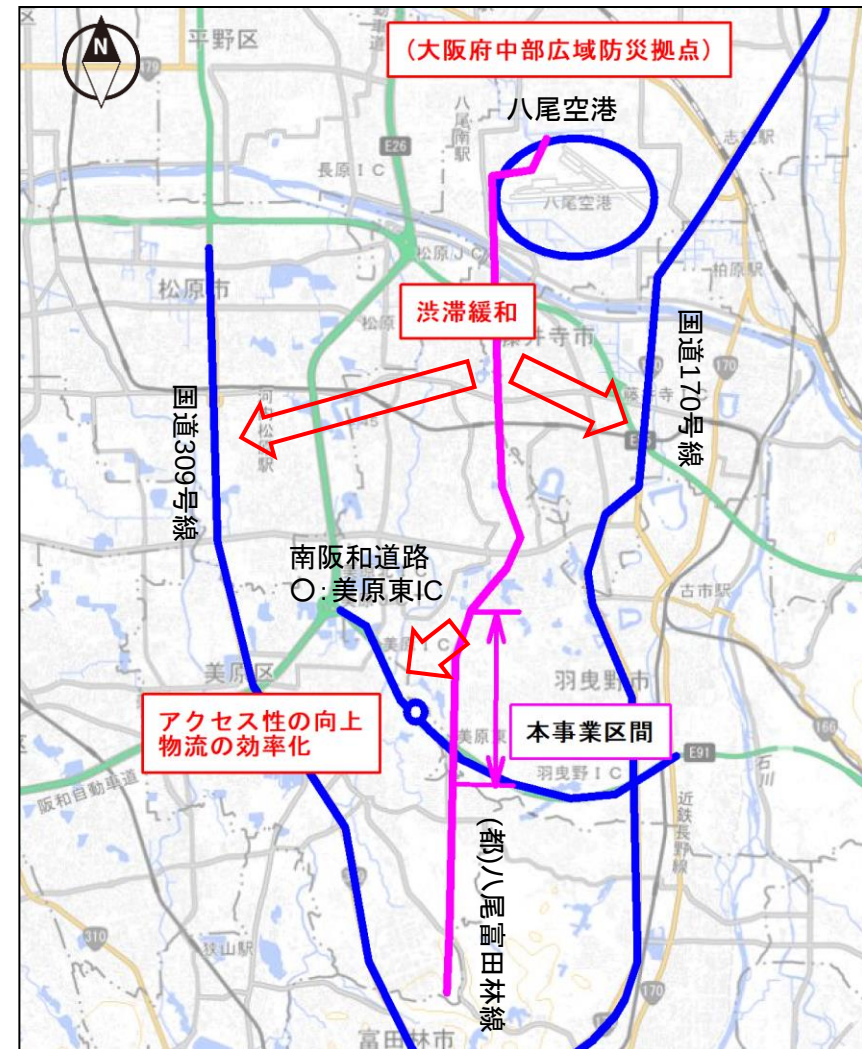
●整備状況

- ・八尾富田林線のうち本事業区間は1.9kmであり、
うち計0.9kmが供用済み

●その他

- ・地元市より早期整備要望があること

以上より、本事業の優先度は高い



2. 事業の必要性等に関する視点

■事業をめぐる社会経済情勢等

[周辺道路の整備状況]

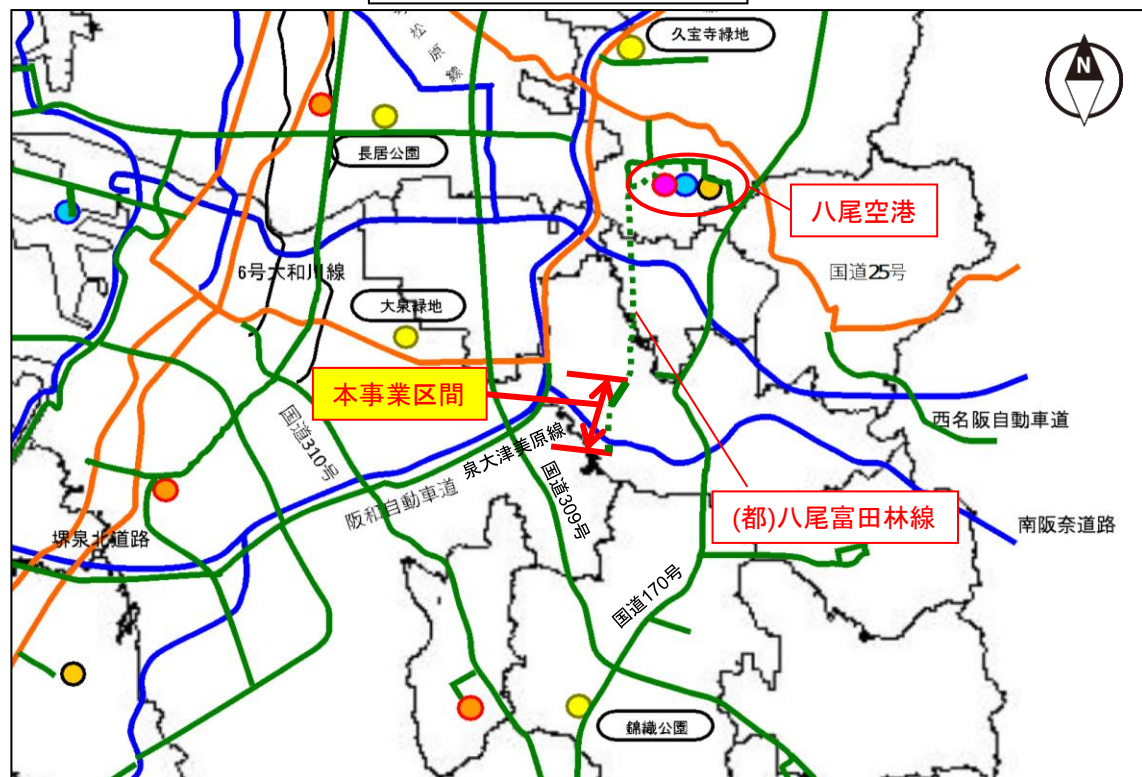
○南阪奈道路がH16.3に全線開通

[周辺の防災関連施設]

○阪和自動車道、南阪奈道路、国道170号、泉大津美原線等が広域緊急交通路に指定

○八尾空港隣接地においてH15.9に大阪府中部広域防災拠点を開設

広域緊急交通路



凡 例			
広域 緊急交通路	緊急交通路	自動車専用道路	
		一般道路 重点14路線	
		一般道路 その他路線	
主要な 防災拠点	広 域 防 災 拠 点		
	後 方 支 援 活 動 拠 点		
	輸 送 基 地		
陸 上 自 衛 隊 駐 屯 地			
災 害 拠 点 病 院			
大 阪 府 庁			

(注) 点線は、事業中路線を示す。

2. 事業の必要性等に関する視点

■事業をめぐる社会経済情勢等

[（都）八尾富田林線 羽曳野工区の経過]

平成8年度 : 本事業区間L=1.9 kmにおいて事業着手

平成15年度 : 南阪奈道路の供用開始に合わせて、南阪奈道路～堺市美原区境までの区間（L=400m）において供用開始

平成20年度 : 財政再建プログラム（案）により「ペースダウン」

平成25年度 : 整備効果を早期に発現するため、事業用地が確保できた
市道郡戸古市線～市道河原城羽曳が丘西1号線までの区間（L=500m）において供用開始

～ : 未買収地における境界確定及び用地交渉を継続して実施

令和4年度 : 南阪奈道路から北側の買収済み区間（L=200m）において街路築造工事に着手

～

令和7年度 : 令和6年度に引き続き、さらに北側の買収済み区間（L=100m）において街路築造工事に着手予定

※境界確定及び用地交渉については、事業着手以降、継続して実施中

2. 事業の必要性等に関する視点

■事業の投資効果(費用便益分析)①

◆費用便益比とは

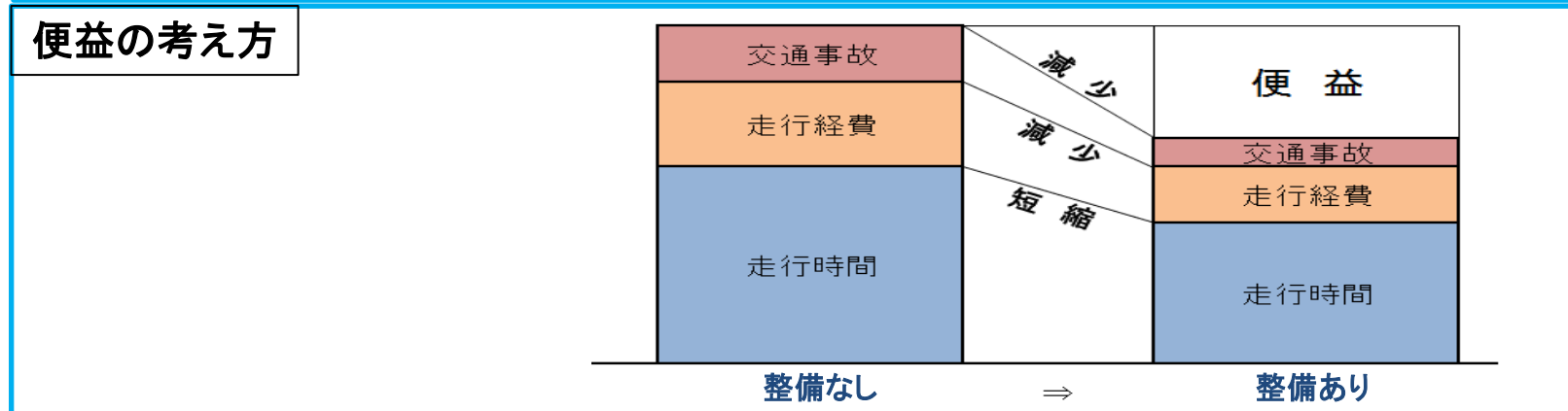
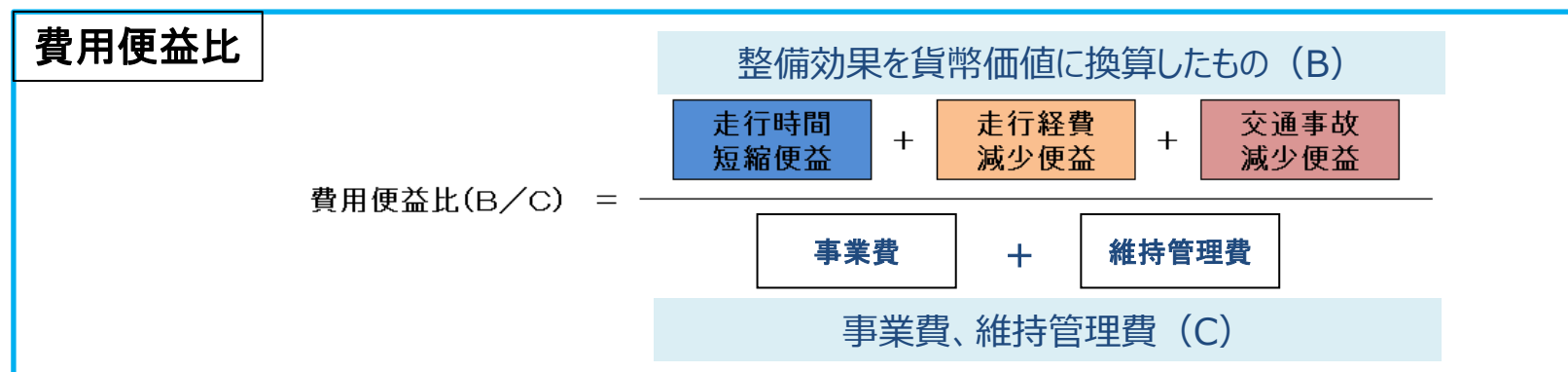
＜便益＞を＜費用＞で割ったものであり、値が大きいほど投資効果大きい。

◆道路事業の費用便益比(B/C)

費用: 道路整備に要する事業費＋維持管理に要する費用(C: コスト)

便益: 整備効果を貨幣価値に換算したもの(B: ベネフィット)

走行時間短縮便益＋走行経費減少便益＋交通事故減少便益

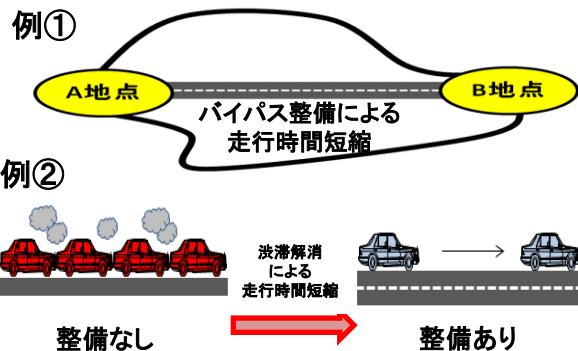


2. 事業の必要性等に関する視点

◆走行時間短縮便益とは

道路整備・改良に伴い自動車交通が円滑化し、走行時間が短縮されることにより、道路利用者の得られる利益を貨幣換算したもの。

○整備の有無による走行時間価値の年間総和差により算出
走行時間価値(円/年)
= 交通量(台/日) × 走行時間(分)
× 時間価値原単位(円/台・分)
× 365(日/年)



⇒この整備無しと有りの価値の差を、リンクごとに集計し、さらに供用後50年間分を合計することで、本事業の
走行時間短縮便益197.7億円
が算出される。

◆走行経費減少便益とは

道路整備・改良に伴い自動車交通が円滑化し、燃費が向上するなど走行経費(※)が節約されることにより、道路利用者が得られる利益を貨幣換算したもの。

※走行経費:
燃料費、タイヤ・チューブ費、車両整備(維持・修繕)費など

○整備の有無による走行経費の年間総和差により算出
走行経費(円/年)
= 交通量(台/日) × リンク延長(km)
× 走行経費原単位(円/台・km)
× 365(日/年)

⇒この整備無しと有りの経費の差を、リンクごとに集計し、さらに供用後50年間分を合計することで、本事業の
走行経費減少便益30.7億円
が算出される。

◆交通事故減少便益とは

道路整備・改良に伴い自動車交通の分散化が図られ、交通事故による社会的損失(※)の減少を貨幣換算したもの。

※社会的損失: 人的損害額(運転者、同乗者、歩行者など)、物的損害額(車両、構造物の事故損失)、事故渋滞による損失額

○整備の有無による損失額の年間総和差により算出
損失(円/年)
= リンク交通量(台・km/日)
× 係数(円/台・km) × 365(日/年)
+ リンク交差点箇所数(台・箇所/日)
× 係数(円/台・箇所) × 365(日/年)



⇒この整備無しと有りの損失額の差をリンクごとに集計し、さらに供用後50年間分を合計することで、本事業の
交通事故減少便益4.2億円
が算出される。

2. 事業の必要性等に関する視点

■事業の投資効果(費用便益分析)②

＜効果項目＞走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少
＜費用＞道路整備に係る建設費・維持管理費

○算出条件等

使用マニュアル : 費用便益分析マニュアル
(国土交通省令和7年8月)

基準年 : 令和7年(2025年)度

検討期間 : 50年間

社会的割引率 : 4%

交通量推計時点 : 令和22年(2040年)度

推計に用いた資料 : 平成27年度全国道路・街
路交通情勢調査

全体事業費 : 約92.5億円(単純価値)

維持管理費 : 約1,600万円/年

◆費用便益分析

全事業 B/C=1.23(残B/C=4.08)

◆便益(B)

総便益	232.6億円
走行時間短縮便益	197.7億円
走行経費減少便益	30.7億円
交通事故減少便益	4.2億円

◆費用(C)

総費用	189.3億円
全体事業費	186.8億円
維持管理費(50年間、現在価値)	2.5億円

※総費用及び総便益は
基準年の価値に換算した現在価値額

■事業の投資効果(費用便益分析)③

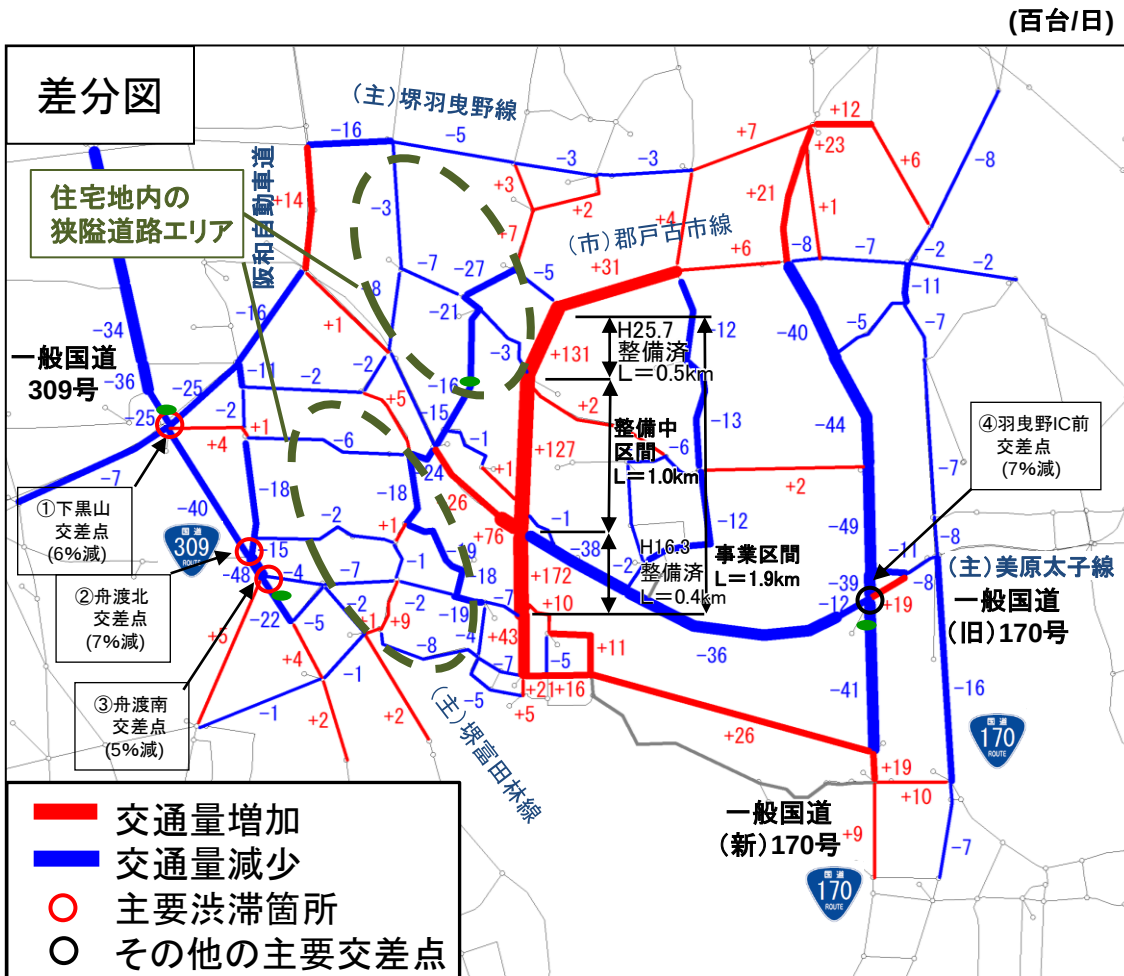
◆事業実施前



2. 事業の必要性等に関する視点

■事業の投資効果(費用便益分析)

○本事業の整備により、周辺で混雑している国道309号(−48百台/日)、国道(新)170号(−49百台/日)等から八尾富田林線(+127百台/日)に交通転換すると予測



差分図:各リンクについて、本事業の整備有無による交通量の差を図化したもの
(※主な道路について記載)

◆国道309号の混雑緩和

交通量 - 4,800台/日(約5%減)
混雑度 最大2.09→1.94



◆国道(新)170号の混雑緩和

交通量 - 4,900台/日(約12%減)
混雑度 最大1.29→1.15

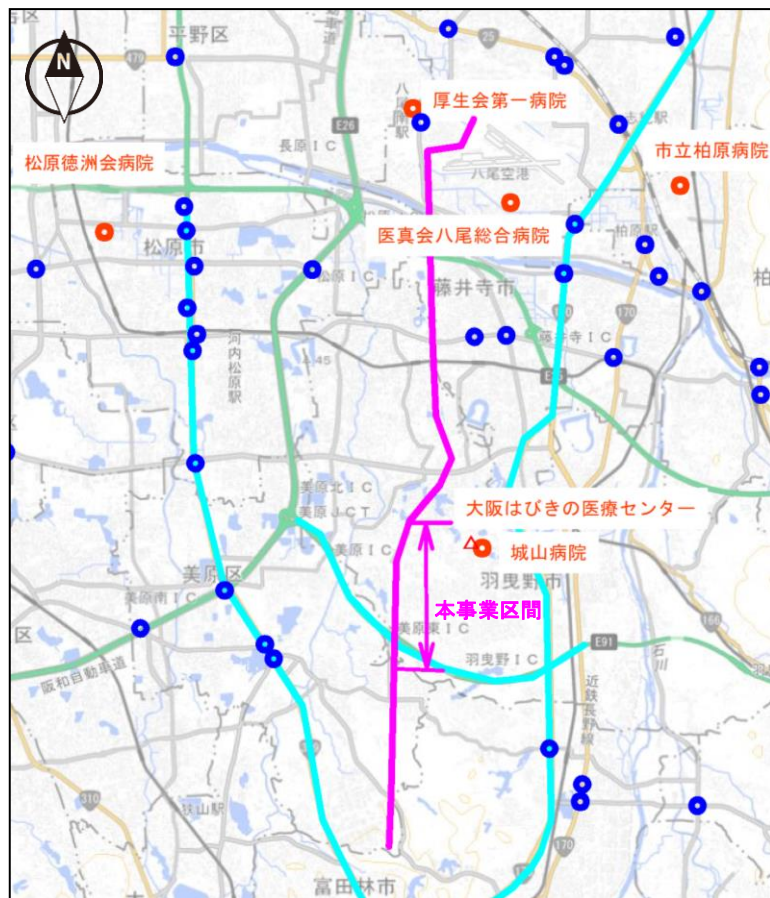


◆周辺住宅地内の狭隘道路の混雑緩和



2. 事業の必要性等に関する視点

■事業効果の定性的分析



【安全・安心】

- 無電柱化することで、地震や台風等の自然災害時における電柱倒壊による道路の寸断を回避できる
- 本事業の実施により、新たな広域緊急交通路が整備されることで災害時における迅速な救助活動が可能となる
- 広幅員な道路を整備することで、災害時の避難路になることや、国道170号等幹線道路のリダンダンシーの確保につながるなど防災機能の強化に寄与する

【活力】

- 広域的な道路ネットワークを形成するとともに、交通の分散を図り、地域間交流の活性化や物流の効率化に寄与する
- 南阪奈道路の美原東ICへのアクセス性が強化されることで、地域の活性化に寄与する

【快適性】

- 十分な幅員が確保された歩道の整備、また車道と歩道、自転車道が分離構造となり、利用者の快適性が向上する
- 生活道路の安全性向上に寄与する
- 無電柱化により、良好な景観が形成される

3. 事業の進捗の見込みの視点

○進捗状況

◆用地:88%(44.7億円/50.8億円) 工事:45%(19.0億円/42.1億円) (事業全体70%) 完成予定R13年度



供用済み区間



市道郡戸古市線～市道河原城羽曳が丘西1号線(H25.7供用)

整備中区間



南阪奈道路北側の
工事着手済み区間

- 平成16年3月に南阪奈道路からさつきの住宅までの0.4km、平成25年7月に市道郡戸古市線から市道河原城羽曳が丘西1号線までの0.5kmを供用済み。
- 残る市道河原城羽曳が丘西1号線から南阪奈道路の1.0km区間についても、現在、未買収地の用地買収に先立ち必要な境界確定を進めるとともに、南阪奈道路以北の買収済箇所について工事を進めているところ。

3. 事業の進捗の見込み、コスト縮減の工夫等

■コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

【コスト縮減案】

- 発生土や盛土材の公共工事間流用
- 再生アスファルトや再生砕石の使用

【代替案立案等の可能性】

- 本事業は、都市計画決定に基づき実施。
- 用地について、事業全体の約88%を取得し、一部区間(延長0.9km)は、既に供用済み。
- 市道河原城羽曳が丘西1号線～南阪奈道路の1.0km区間についても、現在、未買収地の用地買収に先立ち必要な境界確定を進めるとともに、現在、南阪奈道路以北の買収済箇所について工事を進めている

以上のことから、原案が適切である。



4. 対応方針（原案）

○事業継続

＜判断の理由＞

- 本事業区間1.9kmのうち、0.9kmが供用済みである。
- 残る整備中区間についても、南阪奈道路以北の買収済箇所について工事を進めており、今年度も工事を実施予定である。
- 南阪奈道路にアクセスし広域的な幹線道路ネットワークが強化され、防災機能向上や地域の活性化に寄与する。また、国道170号や国道309号といった道路の交通分散化、無電柱化を図る本事業への交通転換により周辺道路における歩行者の安全性向上が期待され、事業の必要性・目的に変化はない。
- 地元市より早期整備要望がある。

以上の理由により、事業を継続する。